

## 第6回 EAS エネルギー大臣会合 共同声明（仮訳）

2012年9月12日、カンボジア・プノンペン

1. 第6回東アジアサミット・エネルギー大臣会合(EAS EMM)は、2012年9月12日にカンボジアのプノンペンで開催された。会合では、カンボジアのスィ・セム産業鉱物エネルギー大臣が議長を、日本の北神経済産業大臣政務官が副議長を務めた。また、会合には、EAS 各国、すなわち、ASEAN 各国、豪、中、印、日、韓、NZ、露および米のエネルギー大臣および高級事務レベルと、ASEAN 事務局長が参加した。
2. 大臣は、世界経済の展望、世界のエネルギー市場の高まる不確実性、そして東アジアのエネルギー需要の増大に鑑みて、EAS 各国に、これらの課題の克服に向けて、引き続き EAS エネルギー協力を強化していくよう促した。
3. 大臣は、省エネルギー作業部会においてEAS 各国によってなされた着実な進捗を歓迎した。これには、自主的に設定した省エネルギーの目標と国家計画の採択を含み、2005年から2009年にかけて多くのEAS 国においてエネルギー原単位の低減がなされた。大臣は、IEEJ アジア/世界エネルギーアウトックによると、EAS 地域の一次エネルギー供給量(TPES)が2035年には世界のTPESの62%に及ぶ見通しであることに留意し、地域のエネルギー効率を改善していく活動が、今後の世界のエネルギー展望に重要な役割を担うであろうことを示した。大臣は、省エネルギーに関する人材育成、情報共有促進の活動について、メンバー国の関連機関の貢献を評価した。また、大臣は、エネルギー効率の改善に向けた各国の行動計画の進捗を反映した省エネルギーポテンシャルの研究を歓迎した。大臣は、2012年7月31日から8月1日に、ラオスに関する報告を含む第2回省エネルギーカンファレンスを開催したカンボジアに感謝の意を表明し、カンファレンスの政策提言に留意した。
4. 大臣は、輸送等目的のバイオ燃料作業部会においてなされたさらなる進捗、特に、関係各国におけるバイオ燃料利用の優れた実践を含む東アジア各国のバイオ燃料データベースのさらなる進捗、アジア・バイオマスエネルギー研究者招聘プログラムでの研究活動、そしてERIA が実施した東アジアのバイオディーゼル燃料標準化とバイオマス利用の持続性評価の共同研究について、エネルギー関係者を称賛した。大臣は、これまでに得られた優れた成果をもとに、これらのプログラムの遂行をさらに進展させるようエネルギー関係者に促した。
5. 大臣は、「東アジアのエネルギー市場統合(EMI):理論、電力セクター、補助金」に関する研究によるエネルギー市場統合作業部会への貢献について、ERIA に感謝の意を表明した。大臣は、実現可能な選択を目的とした研究提案を検討するよう関係者に指示した。大臣は、また、シンガポール国際エネルギーウィーク2012と併催で、2012年10月23日に第1回EAS エネルギー市場規制撤廃フォーラムをシンガポールで開催することについて、シンガポールとニュージーランドに感謝の意を表明した。大臣は、EAS 各国に対し、同フォーラムに参加するべく、貿易、投資、エネルギーに関連する省/部署/機関、及びエネルギー規制当局から代表者を派遣することを促した。

6. 大臣は、EAS エネルギー協力とエネルギー安全保障を強化するため、増大していく地域のエネルギー需要や、既存のエネルギーインフラに及ぼす自然災害によって生じ得る影響を考慮し、エネルギー需給に関する中長期的なアウトルックの共有が重要であることを認識した。これに関して、大臣は、エネルギー需給見通しの策定を進めるにあたり、ERIA が ACE と連携し、国際エネルギー機関(IEA)と協力していくことを認識した。
7. 大臣は、EAS 域内のさらなるエネルギー協力強化について、次にあげる調査研究が日本のサポートとともに ERIA によって開始されることに留意した。(1)中長期エネルギー需給見通しの策定、(2)クリーンコールテクノロジーによる石炭の戦略的活用、(3)電力インフラの最適化、(4)原子力発電の安全管理、(5)スマート都市交通による運輸部門の省エネルギー。大臣は、EAS エネルギー協力を強化するために、ERIA が新たなエネルギーユニットを創設したことを歓迎し、ERIA の継続的なサポートに感謝の意を表明し、今後の大臣会合において、新たな調査研究と協カイニシアティブの進捗を報告するように ERIA に要請した。
8. 大臣は、エネルギー利用と気候変動の間に密接な関係があることに留意し、低炭素成長に向けた調査研究の重要性を認識した。大臣は、2011 年の東アジアサミットで合意されたように、低炭素成長に関する域内協力の推進について議論するために、2012 年 4 月にインドネシアと日本が共同議長を務めた第 1 回東アジア低炭素成長パートナーシップ対話の成果を歓迎した。また、大臣は、温暖化ガスの排出を地球規模で削減するためには、低炭素技術、製品、サービスの普及が重要な役割を担うことを認識した。
9. 大臣は、EAS エネルギー協力のさらなる発展のため、2013 年インドネシアで再会することに合意した。
10. 大臣は、カンボジア王国の政府と国民による第 6 回 EAS エネルギー大臣会合における温かい歓待と素晴らしいアレンジに対して感謝の意を表明した。